



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～流行している感染症について～

6月も胃腸炎が最多でしたが、この数ヶ月は様々な感染症が流行しています。東京都では6月22日にヘルパンギーナの定点報告数が警報レベルを超えたと発表しました。ヘルパンギーナは手足口病と同じ夏風邪のウイルスの一種で、毎年夏に小児の間で流行します。今年は2019年以來久しぶりの流行ですので、3年間かからなかった子供たちが一度に罹っていると見られます。また、RSウイルスの流行がニュースになっておりますが、2021年の大流行に比べるとそこまではなく、過去例年と同じレベルです。RSウイルスは乳児で気管支炎や肺炎で重症化する事があり注意が必要です。0歳児で咳や鼻水の他に、哺乳量が減ったり、顔色が悪くなったり、呼吸が早くなったり、ゼイゼイしたりする時は医療機関を受診しましょう。

～東京都の麻疹の動向～

東京都感染症情報センターの流行状況を見ますと、2023年の20週目と21週目（5月中旬）、24週目（6月下旬）に計5名の報告が上がりました。潜伏期が10～12日（最大21日）である事を考えるとほぼ終息したとみられます。

～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

7月5日、日本医師会の釜淵敏常任理事は新型コロナウイルスの感染者数が5月よりも6月は増加しており9波に入ったとみられると発表しました。現在の流行株であるオミクロン株の重症化率は増悪傾向とは言えず、XBB.1.9.2, XBB.2.3, XBB.1.5などが主流となり、引き続き注意が必要なのは免疫の低下した基礎疾患のある方、高齢者のみです。

令和5年7月9日時点での東京都の新型コロナワクチン小児3回目接種率は、0～4歳児では3.8%、小児では9.9%となっています。

～新型コロナワクチンの副反応について～

令和5年4月28日に厚生省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2057名（このうち19歳以下は9名）、副反応疑い報告数は36295件でした。令和5年6月29日までに受理された健康被害救済制度の件数は8064件にのぼっており、このうち認定されたのは3163件です。

2022年8月31日～10月23日に米国の医療関係者等からの報告に基づくオミクロン株対応2価ワクチンの12歳以上の有害事象が5542件報告されました。右表と下表にお示します。

重篤	ファイザー製	モデルナ製
アレルギー	6件	2件
虫垂炎	4件	1件
不整脈	8件	5件
死亡	27件	9件
血栓症	20件	11件
心筋炎・心膜炎	8件	5件

表：6月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アデノ2含む)	187
2	溶連菌	122
3	ヘルパンギーナ・手足口病	58
4	咽頭アデノウイルス	33
5	RSウイルス	26
6	インフルエンザA型	10
7	新型コロナウイルス	7
8	突発性発疹	6
9	とびひ(伝染性膿痂疹)	4
10	おたふくかぜ	2
10	水ぼうそう(水痘)	2
12	ヘルペス歯肉口内炎	1

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

非重篤	ファイザー製	モデルナ製
頭痛	343件(12.4%)	285件(11.3%)
疲労	318件(11.5%)	257件(10.2%)
発熱	299件(10.8%)	262件(10.4%)
悪寒	293件(10.6%)	231件(9.1%)



文責：清水マリ子

